

**施策体系シート(行政経営Bシート)**

作成者	組織	地域医療推進室	職	室長	氏名	北川 龍郎
評価者	組織	地域医療推進室	職	室次長	氏名	東谷 俊也

施策	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	医師の確保と資質の向上	能登北部自治体4病院における医師充足率	%	H19比増 (H24)	98.6 (H23)	105.7 (H24)	A
施策2	医療連携体制の整備	地域連携クリティカルパス活用医療機関数	医療圏－医療機関数	H19比増 (H24)	4-39 2-4 2-12 (H23)	4-54 2-6 2-14 (H24)	A

H19:84.2%

上段:脳卒中パス                      H19:－  
 中段:急性心筋梗塞パス  
 下段:糖尿病パス

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価		
施策	課題		成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
						(年度)	(年度)						
施策1	課題1	医師確保対策	能登北部自治体4病院における医師充足率 (H19:84.2%)	%	H19比増 (H24)	98.6 (H23)	105.7 (H24)	1 医学部進学セミナー開催事業	医学部進学希望者	500	322	B	継続
								2 寄附講座設置費	金沢大学 金沢医科大学	192,000	192,000	A	継続
								3 臨床研修医確保対策事業	医学生・臨床研修医	1,800	1,506	A	継続
								4 ふるさと石川の医療を守る人材ネットワーク推進事業	本県出身の県外在住医師等	1,500	825	B	継続
								5 女性医師就業継続支援事業	女性医師	4,000	3,200	B	継続
								6 緊急医師確保修学資金貸与事業	金沢大学医学類特別枠生	84,000	84,000	B	継続
	課題2	特定診療科医師の確保	小児医療に係る医師数(H18:170人) ※厚生労働省調査が2年毎のため	%	H18比増 (H24)	174 (H22※)	－ (H24※)	1 地域医療支援医師修学資金貸与事業	小児科・産科・麻酔科医・外科	14,400	7,200	B	継続
施策2	課題1	医療機関連携の強化	地域連携クリティカルパス活用医療機関数	医療圏－医療機関数	H19比増 (H24)	4-48 2-4 2-12 (H23)	4-54 2-6 2-14 (H24)	1 地域医療ネットワーク推進事業	地域の開業医	20,000	20,000	B	拡大
								2 脳卒中診療連携拠点病院制度	病院	29,873	29,748	B	継続

上段:脳卒中パス  
 中段:急性心筋梗塞パス  
 下段:糖尿病パス

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	医学部進学セミナー開催事業	事業開始年度	H20	事業終了予定年度		作 組 織	地域医療推進室
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	主事 中谷 咲子
						者 電話番号	076 - 225 - 1449 内線 4109

事業の背景・目的

1 事業の目的  
県内高校からの医学部進学者の増加を図るため、高校生を対象としたセミナーを開催

2 事業の概要  
塾講師の招聘による特別講座や県内大学医学部教授・医学生による医学部への進学を誘導するための講義を実施

場 所;金沢市内  
実施時期;8月3日(金)  
対 象 者;医学部進学を目指す高校生・予備校生、保護者、高校・予備校教員

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	医師の確保と資質の向上		評価	A		
課題	医師確保対策					
	指標	能登北部自治体4病院における医師充足率	単位	%		
	目標値	現状値				
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	H19比増	78.9	81.8	93	98.6	105.7
事業費						
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	1,100	600	500	500	500
	決算	600	500	499	405	407
一般財源	予算	1,100	600	500	500	500
	決算	600	500	499	405	407
事業費累計		600	1,100	1,599	2,004	2,411
評価						
	項目	評価	左記の評価の理由			
	事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	24年度の開催にあたって、約80名の受講があった。「進路を考える上で大変役にたった」「医学への関心が高まった」等の意見が多く聞かれ、参加者から高い評価が得られた。			
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	県内高校からの医学部進学者の増加を図るため、今後も引き続き県内の高校生を対象にセミナーを開催していく。			

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 寄附講座設置費	事業開始年度	H21	事業終了予定年度	H25	作成者	組 織	地域医療推進室
	根拠法令 ・計画等	石川県地域医療再生計画				職・氏名	主事 中谷 咲子

寄附講座(地域医療再生計画関連)

- 設置の趣旨  
金沢大学及び金沢医科大学において、能登北部地域を中心として、地域医療のあり方をテーマに、現地での診療支援を兼ねた実地研究を伴う寄附講座を設置する。
- 講座数及び金額  
・金沢大学 5講座、金沢医科大学 1講座  
・1講座当たり 30,000千円/年
- 設置期間  
平成22～25年度

石川の地域医療人材養成支援事業

- 目的  
緊急医師確保修学資金事業により金沢大学医学類に推薦入学した医学生(特別枠)へのキャリア形成支援、卒業後の医療機関への配置に向けた調整を実施
- 事業内容  
・特別枠医学生・医師のキャリア形成支援  
・特別枠医師の配置にむけた調整
- 委託先  
金沢大学附属病院
- 事業費  
12,000千円/年
- 実施期間  
平成24～25年度

【参考】

- ・H21～H23年度に金沢大学に寄附講座(地域医療教育学講座)を設置
- ・H23年度末に研究の成果として、H24年度以降の特別枠のキャリア形成を支援する体制のあり方に関する提言がなされ、その提言を受けての事業

施策・課題の状況						
施策	医師の確保と資質の向上				評価	A
課題	医師確保対策					
指標	能登北部自治体4病院における医師充足率				単位	%
目標値	現状値					
平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
H19比増	78.9	81.8	93	98.6	105.7	
事業費						
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
事業費	予算	30,000	210,000	210,000	192,000	
	決算	30,000	210,000	210,000	192,000	
一般	予算	30,000	30,000	30,000	30,000	
	決算	30,000	30,000	30,000	30,000	
財源	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	
事業費累計	30,000	240,000	450,000	642,000		
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	金沢大学附属病院と金沢医科大学病院の協力のもと、現地での診療支援を兼ねた寄附講座により、常勤・非常勤あわせて27名の医師が能登北部地域を中心に診療支援にあたることで、医師確保に大いに貢献した。また、特別枠医学生を対象とした地域医療実習や交流会を金沢大学に委託して開催し、特別枠医学生のキャリア形成を支援した。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	能登北部地域を中心とした医師確保対策のため、地域医療のあり方をテーマに、現地での診療支援を兼ねた実地研究を伴う6つの寄附講座を引き続き実施していく。また、特別枠医学生を対象とした地域医療研修などを金沢大学附属病院に委託して実施し、H29年度からの勤務開始に向けて特別枠医学生のキャリア形成を支援していく。				

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	臨床研修医確保対策事業	事業開始年度	H20	事業終了予定年度		作 組 織	地域医療推進室
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	専門員 末林 真紀
						者 電話番号	076 - 225 - 1449 内線 4109

<p>1 事業の目的 県内における臨床研修医や後期研修医を確保するための誘致活動等を実施</p> <p>2 事業の概要 (1)「石川の医療を担う若手医師の集い」の開催 県内の臨床研修医や後期研修医としての就業を誘致するシンポジウムを開催 場 所: 金沢市内(ホテル金沢) 実施時期: 平成25年2月3日 対 象 者: 医学部5年生、臨床研修医1年次生</p> <p>(2)「臨床研修指定病院合同セミナー」への出展 県内出身の医学生を中心に県内での臨床研修を誘致(合同セミナー: 東京、名古屋で開催)</p> <p>(3)「石川県臨床研修推進協議会」の開催 研修内容の向上、研修医の確保方策等を検討</p> <p>これまでの見直し状況</p>	施策・課題の状況						
	施策	医師の確保と資質の向上				評価	A
	課題	医師確保対策					
		指標	能登北部自治体4病院における医師充足率			単位	%
		目標値	現状値				
		平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
		H19比増	78.9	81.8	93.0	98.6	105.7
	※H19:84.2%						
	事業費						
		(単位: 千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	2,000	1,800	1,800	1,800	1,800	
	決算	1,920	1,424	1,424	1,800	1,506	
一般	予算	2,000	1,800	1,800	1,800	1,800	
	決算	1,920	1,424	1,424	1,800	1,506	
財源	決算	1,920	1,424	1,424	1,800	1,506	
事業費累計		1,920	3,344	4,768	6,568	8,074	
評価							
	項目	評価	左記の評価の理由				
	事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	シンポジウムには約200名が参加し、セミナーについても名古屋、東京の2会場に出展し、これらの参加者に対する県内臨床研修病院のアピールと誘致活動を実施するとともに、参加者の声を反映した臨床研修病院のより良い研修プログラムの検討や、へき地医療研修実施病院との連携体制の強化を図った結果、H25新規臨床研修医は92人、能登北部自治体4病院のH24医師充足率は105.7%となり、県内の医師確保に大いに寄与した。				
	今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	県内の医師、特に臨床研修医を確実に確保していくため、引き続き、シンポジウムを開催するとともに、セミナーに参加する医学生等への誘致活動を実施するほか、臨床研修病院の指導内容の向上、研修医の確保方策等を検討する。				

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	ふるさと石川の医療を守る人材ネットワーク推進事業	事業開始年度	H21	事業終了予定年度		作 組 織	地域医療推進室	
		根拠法令 ・計画等				成 職・氏名	専門員 末林 真紀	
							者 電話番号	076 - 225 - 1449 内線 4109

事業の概要

○ 目的  
ふるさと石川の医療大使を委嘱した本県ゆかりの医師と、その人材ネットワークを活用した首都圏在住の医療関係者等を対象とした「ふるさと石川の医療を守る集いin能登」を開催し、病院の視察や意見交換等を行い、能登北部地域の医療の現状について理解を深めていただくとともに、首都圏ネットワークの強化を図りながら、即戦力となるUIターン医師の情報収集を行う。

○ 開催時期 平成24年11月24日～25日

○ 開催場所 鳳珠郡能登町内

○ 参加者(約45名)  
・医療大使、首都圏ネットワーク関係者  
・県内医関係者  
・県関係者

※参加者の募集  
・ふるさと石川の医療大使から友人・知人の医師に参加を働きかけ  
・県から首都圏ネットワーク関係者に参加を働きかけ

○ 内容  
・医療機関視察(病院内施設・医師住宅の見学)  
・意見交換会(能登北部における地域医療研修の概要、能登北部の医療のあり方についての意見交換)

施策・課題の状況							
施策	医師の確保と資質の向上					評価	A
課題	医師確保対策						
指標	能登北部自治体4病院における医師充足率					単位	%
目標値	現状値						
平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
H19比増	78.9	81.8	93.0	98.6	105.7		
事業費							
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度		
事業費	予算	1,600	1,500	1,500	1,500		
	決算	1,600	1,066	1,260	825		
一般	予算	1,600	1,500	1,500	1,500		
	決算	1,600	1,066	1,260	825		
財源	事業費累計						
	1,600	2,666	3,926	4,751			
評価							
項目	評価	左記の評価の理由					
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	医療大使や首都圏ネットワークの方々等の参加のもと、平成24年11月に「ふるさと石川の医療を守る集いin能登」を能登町にて開催。病院視察や意見交換会、交流会を行い、能登北部地域の医療の現状について理解を深めていただくとともに、UIターンを希望する医師の情報を収集することができた。 平成23年度からは、東京大学医学部附属病院の臨床研修医が、平成24年度からは、聖マリアンナ医科大学病院の臨床研修医が、能登北部の4公立病院で地域医療研修を行っている。					
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	退職医やUIターンを希望する医師を確保していくため、今後も、立ち上げたネットワークを活用して情報収集を行い、地域医療人材バンクと連携した取り組みを継続する。					

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	女性医師就業継続支援事業	事業開始年度	H20	事業終了予定年度	
		根拠法令・計画等	石川県医療計画		

作組	織	地域医療推進室			
成職	氏名	主事 三浦 奈緒美			
者電	話番号	076 - 225 - 1468 内線 4126			

**事業の背景・目的**  
 医師不足の中、近年増加する女性医師が出産・育児で離職せず引き続き勤務を続けられるよう、相談窓口として石川県女性医師支援センターを設置し、就業の継続、復職に向けた支援を図る。

**事業の概要**  
 石川県女性医師支援センター設置運営費  
 (委託先) (社)石川県医師会  
 ※センターの運営にあたっては、県、県医師会、女性医師が多く勤務する病院代表からなる運営委員会を立ち上げて協議

(1) 女性医師メンターの配置  
 女性医師の多い県内13病院に女性医師メンターを配置し、院内における相談対応や情報収集・提供活動を実施

(2) 女性医師支援コーディネーターの配置  
 センター内にコーディネーターを配置し、各メンターの活動をサポートし、メンターからの情報収集などを通じて、女性医師が就労継続しやすくなるための対策の提案を行う

(3) 女性医師支援セミナーの開催  
 先の見えない不安を抱えながら勤務している女性医師に対し、今後も勤務を継続してもらうため、女性医師の目指すべきロールモデルを提示するようなセミナーを開催する

(4) 離職後の再就業や本格的な復帰に不安を抱える女性医師に対する復職研修の実施

(5) 情報収集・提供活動  
 女性医師に配慮する医療機関情報、子育て支援の各種サービス情報の収集・提供を行うほか、女性医師支援につながるような各種調査を実施

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	医師の確保と資質の向上	評価	A			
課題	医師確保対策					
	指標	能登北部自治体4病院における医師充足率	単位	%		
	目標値	現状値				
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	H19比増	78.9	81.8	93.0	98.6	105.7

事業費						
	(単位: 千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	1,000	1,500	4,000	4,000	4,000
	決算	500	2,000	2,800	3,200	3,200
一般	予算	500	1,000	1,000	1,000	1,000
財源	決算	250	1,000	800	950	750
事業費累計		500	2,500	5,300	8,500	11,700

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	女性医師支援セミナーについて、従来年1回の開催を年2回に拡充し、参加者(延べ80名)からも「大いに刺激を受けた」と非常に好評であった。また、新たに「医師のキャリアアップと継続」をテーマに金沢大学医学生に対する特別講義を開催するなど、若者に対する普及啓発を行い、女性医師支援の機運を高めた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	医師確保の観点から女性医師に対する支援はこれからますます必要であり、女性医師のロールモデルを提示するセミナーの開催や、コーディネーター・メンターを通じた情報収集・提供及び相談活動など、支援を今後も継続していく。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 緊急医師確保修学資金貸与事業	<b>事業開始年度</b> H21	<b>事業終了予定年度</b>	<b>作 組 織</b> 地域医療推進室 <b>成 職・氏名</b> 主事 中谷 咲子 <b>者 電話番号</b> 076 - 225 - 1449 内線 4109
	<b>根拠法令・計画等</b>	緊急医師確保修学資金貸与条例及び同規則	

**事業の背景・目的**  
趣 旨:  
○国の緊急医師確保対策に基づき、金沢大学医学類の入学定員が平成21年度から5人増員されたことを受けて、修学資金貸与制度を創設  
○骨太の方針2009に基づき、平成22年度よりさらに5人増員。  
○卒業後は金沢大学附属病院で臨床研修を行った後、県が指定する病院で勤務する。

貸与対象者: 金沢大学医学類の医学生で、本県の地域医療に貢献する強い意思を持っている者

貸与人数: H21～29年度 各5人  
H22～31年度 各5人

貸 与 額: 年額2,400千円(月額20万円)

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	医師の確保と資質の向上			<b>評価</b>	A	
<b>課題</b>	医師確保対策					
<b>指標</b>	能登北部自治体4病院における医師充足率			<b>単位</b>	%	
<b>目標値</b>	現状値					
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
H19比増		78.9	81.8	93	98.6	105.7

事業費					
(単位:千円)					
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	12,100	36,100	60,000	84,000
	決算	12,100	36,100	60,000	84,000
一般	予算	12,100	24,100	36,000	48,000
	決算	12,100	24,100	36,000	48,000
財源	12,100	24,100	36,000	48,000	
事業費累計	12,100	48,200	108,200	192,200	

評価	
<b>項目</b>	<b>評価</b> 左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	<b>B</b> H24は、将来地域医療に貢献する意思を持っている38名から応募があり、予定している10名に貸与し、将来本県で地域医療に従事することになる医学生を確保できた。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	<b>継続</b> 修学資金を貸与することで、将来石川県の医療に従事することとなるため、地域医療を担う医師の確保にとって不可欠な事業であり、今後とも継続していく。

(参考)義務年限中の勤務形態

	<b>卒 後</b>									義務年限終了
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	
	臨床研修		勤務			後期研修		勤務		
在学 (6年間)	金沢大学附属病院		指定医療機関のうち、能登北部の自治体立病院を中心に指定				県立中央病院、金沢大学附属病院等		(3～5年目と同じ)	
	指定医療機関									
奨学金貸与 (月額20万円)	★身分:勤務先の身分 (指定医療機関)									
※6年間総額14,400千円	市立輪島病院、珠洲市総合病院、公立穴水総合病院、公立宇出津総合病院、公立能登総合病院、公立羽咋病院、町立富来病院、志雄病院、公立つぎ病院、河北中央病院、公立松任石川中央病院、金沢市立病院、小松市民病院、加賀市民病院、山中温泉医療センター、能美市立病院、県立中央病院、県立高松病院、金沢大学附属病院、金沢医科大学病院、金沢医療センター									
<b>※上記の指定医療機関のうち、能登北部の自治体立病院を中心に、知事が個別に従事先の病院を指定</b>										

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 地域医療支援医師修学資金貸与事業	<b>事業開始年度</b> H18	<b>事業終了予定年度</b>	<b>作 組 織</b> 地域医療推進室
	<b>根拠法令・計画等</b> 石川県地域医療支援医師修学資金貸与条例		<b>成 職・氏名</b> 主事 中谷 咲子
			<b>電 話 番 号</b> 076 - 225 - 1449 内線 4109

**事業の目的**  
県内の不足している特定診療科医師の育成及び確保を図るため修学資金を貸与

**事業の内容**  
将来、知事が定める医療機関において、医師として特定診療科業務に従事しようとする者(医学を専攻する大学生又は大学院生)に対し、修学資金を貸与

対 象 者:大学生(5, 6年生)、大学院生  
 特定診療科:小児科、産科、麻酔科、外科  
 貸 与 額:年額2, 400千円以内  
 募集人員:新規4名  
 貸与期間:大学生在学中又は大学院生在学中のいずれかのうち2年以内

※貸与金返還免除条件  
 ①大 学 生:臨床研修修了後、原則として6年を経過するまでに、貸与期間と同期間、知事が指定する自治体病院で特定診療科の常勤医師として勤務  
 ②大学院生:大学院修了後、原則として6年を経過するまでに、貸与期間と同期間、知事が指定する自治体病院で特定診療科の常勤医師として勤務

知事が指定する自治体病院  
 珠洲市総合病院、市立輪島病院、公立宇出津総合病院、公立穴水総合病院、公立能登総合病院、町立富来病院、公立羽咋病院、志雄病院、能美市立病院、小松市民病院、山中温泉医療センター、加賀市民病院

貸与実績(新規貸与者)  
 H18-3人、H19-2人、H20-5人、H21-4人、H22-5人、H23-4人、H24-2人

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	医師の確保と資質の向上				<b>評価</b>	A
<b>課題</b>	特定診療科医師の確保					
	<b>指標</b>	小児医療に係る医師数			<b>単位</b>	人
	<b>目標値</b>	<b>現状値</b>				
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	H18比増	171	-	174	-	(調査中)
事業費						
	(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
<b>事業費</b>	予算	9,700	14,500	12,100	14,500	14,500
	決算	12,100	12,100	12,100	14,500	7,300
<b>一般</b>	予算	9,700	14,500	12,100	14,500	14,500
	決算	12,100	12,100	12,100	14,500	7,300
<b>財源</b>	決算	12,100	12,100	12,100	14,500	7,300
<b>事業費累計</b>		29,100	41,200	53,300	67,800	75,100
評価						
	<b>項目</b>	<b>評価</b>				<b>左記の評価の理由</b>
	事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B				小児科医を目指す医学生1名、麻酔科医を目指す医学生1名に修学資金を貸与することにより、将来、県内で小児科医・麻酔科医として勤務を予定する者を確保できた。 本制度に基づいて、平成23年10月より能登地域に小児科医1名、平成24年10月より南加賀地域に小児科医1名が勤務を行っているところである。
	今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)					継続 県内の不足している特定診療科医師の育成及び確保を図るために不可欠な事業であり、引き続き小児科・産科・麻酔科・外科医の確保に取り組む。



# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	地域医療ネットワーク推進事業	事業開始年度	H22	事業終了予定年度		作 組 織	地域医療推進室
		根拠法令 ・計画等	石川県医療計画	成 職・氏名	主事 三浦 奈緒美	者 電話番号	076 - 225 - 1468 内線 4110

事業の目的・概要

●地域の医療提供体制の確保を図るため、診療連携体制のあり方の研究や地域連携クリティカルパスの普及・改良などに対して助成を実施。

1. 脳卒中診療ネットワーク  
 ○県内の脳卒中診療連携体制のあり方を研究(能登北部地域の公立病院に非常勤医師を派遣)  
 ○研修会の開催(年1回程度)などにより地域連携クリティカルパスを普及するとともに、データの分析によりパスを改良する  
 (事務局人件費の助成)

2. 認知症診療ネットワーク  
 ○県内の認知症診療連携体制のあり方を研究(能登北部地域の公立病院に常勤医師を派遣)  
 ○能登北部地域の地域住民や医療関係者等を対象にした講演会の開催(年2回程度)などにより、認知症の連携体制を強化

3. 小児医療連携ネットワーク  
 ○能登地域における小児医療の連携体制の強化(一人医長の支援、合同カンファレンスの開催等)を検討  
 ○石川中央地域における三次小児医療機関(金大、医科大、中病、医療センター、医王病院等)の役割分担の在り方について調査研究  
 ○南加賀地域における小児医療の連携体制の強化策(合同カンファレンスの開催等)を検討

4. 糖尿病診療ネットワーク  
 ○地域連携パスを活用した連携の強化(研修会、パスの改良等)  
 ○糖尿病診療体制の強化  
 ・研修会の開催を通じた中核病院と開業医との連携強化  
 ・治療中断者に対する受診勧奨  
 ・診療所への管理栄養士の派遣

これまでの見直し状況

施策・課題の状況						
施策	医療連携体制の整備				評価	A
課題	医療機関連携の強化					
指標	地域連携クリティカルパス活用医療機関数	単位	医療圏-医療機関数			
目標値	現状値					
	平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
H19比増加		-	4-35 2-4 2-13	4-39 2-4 2-13	4-48 2-4 2-12	4-54 2-6 2-14
	平成19年度: -		上段: 脳卒中パス 中段: 急性心筋梗塞パス 下段: 糖尿病パス			
事業費						
(単位: 千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
事業費	予算		15,000	20,000	20,000	
	決算		15,000	19,412	20,000	
一般財源	予算		0	0	0	
	決算		0	0	0	
事業費累計		0	15,000	34,412	54,412	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性  (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	地域連携クリティカルパスの運用や検討会・研修会等を行った結果、パスの改良や参加医療機関等の拡大、住民への普及拡大などの成果を得ることができた。 また、糖尿病診療における診療所への管理栄養士の派遣や認知症に関する出前講座の開催など、病院と地域の医療機関等が連携して医療提供を行った。小児医療では、新たに重症心身障害医療委員会を設置し、現状調査を行い情報共有を図るなど、地域全体で高度な医療を提供するための取組みを行った。				
今後の方向性  (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	拡大	医師不足地域等においては診療連携体制の強化が重要であることから、診療連携体制の在り方の研究やクリティカルパスの普及・拡大、研修会の開催などに対して引き続き支援を行う。 なお、糖尿病については、重症化が多く見られ、糖尿病性腎症を原因とした新規透析患者数が増加傾向にあることから、従来南加賀医療圏のみで行っていた取組みを全県に拡大して行うこととする。				

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 脳卒中診療連携拠点病院支援事業	事業開始年度	H24	事業終了予定年度	H25	作 組 織 地域医療推進室
	根拠法令 ・計画等	石川県地域医療再生計画			成 職・氏名 主事 三浦 奈緒美 者 電話番号 076 - 225 - 1468 内線 4126

**事業の目的**

近年、t-PAをはじめとする脳卒中診療の進歩に伴い、「円滑な救急搬送による 迅速な治療」と「急性期、回復期、維持期に至る切れ目のない医療」を提供することで、救命率は向上し、後遺症は軽減されるようになってきている。

こうした中で、地域において専門的な脳卒中診療を提供するとともに医療連携の中核的な役割を果たしている医療機関(脳卒中診療連携拠点病院)やそれらを含む病院群を支援することにより、一層円滑に救急患者を受け入れる体制を確保するとともに、各地域において、切れ目のない医療の提供を行う診療ネットワークを構築する。

**事業の概要**

○補助対象：脳卒中診療連携拠点病院及び脳卒中診療連携拠点病院を含む病院群  
(脳卒中診療連携拠点病院の指定要件)  
以下の要件を考慮し、指定する

- (1)3次医療機関又はそれに準じた病院であり、各地域の救急搬送の最後の砦であること
- (2)専門的診療の提供(t-PA治療、脳動脈瘤クリッピング等)が可能であること
- (3)地域連携クリティカルパス普及のために指導的な役割を果たしていること
- (4)脳卒中診療を担う人材の育成に指導的な役割を果たしていること

○支援内容

- (1)研修に対する補助
  - ・患者を円滑に受け入れるための救急隊向けの研修
  - ・切れ目のない医療連携を実現するための医療・介護従事者向け(リハビリ施設等)の研修
- (2)遠隔画像伝送システムの整備に対する補助
  - ・遠隔画像伝送システムを整備することにより、円滑な患者の受入れ及び迅速な治療を可能にする。

**これまでの見直し状況**

施策・課題の状況						
施策	医療連携体制の整備				評価	A
課題	医療機関連携の強化					
指標	地域連携クリティカルパス活用医療機関数	単位	医療圏-医療機関数			
目標値	現状値					
平成24年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
H19比増	-	4-35 2-4 2-13	4-39 2-4 2-13	4-48 2-4 2-12	4-54 2-6 2-14	
平成19年度：-			上段：脳卒中パス 中段：急性心筋梗塞パス 下段：糖尿病パス			
事業費						
(単位：千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
事業費	予算				29,873	
	決算				29,748	
一般財源	予算				0	
	決算				0	
事業費累計		0	0	0	29,748	
評価						
項目	評価	左記の評価の理由				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	専門医が携帯するスマートフォンへ頭部CT画像等を伝送する遠隔画像伝送システムの整備により、脳卒中の疑いがある患者の救急搬送時、休日、夜間を問わず、専門医のアドバイスのもと迅速、適切な治療を行うことが可能となり、脳卒中医療体制の強化につながった。 また、脳卒中中の医療連携における先進地の視察や、その取組み内容を発表するシンポジウムを開催するなど、医療連携体制の構築に向けた取り組みを行った。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	今後も一層の脳卒中医療体制の強化を図るため、引き続き、医療・介護従事者向けの研修会の開催等に対して、支援を行っていく。 なお、遠隔画像伝送システムについては、平成24年度で整備が終了している。				